



海岸地区の皆様へ

海岸地区まちぢから協議会

会長 林 正明

令和2年も、もう10月を迎え地域の皆様には大変な年を過ごされていることと思います。

春先から続く、新型コロナウイルスの世界的流行が長期化し、私達は出口のまだ見えないコロナの時代のただ中にあります。世界のどの国、地域も、ウイルスの感染の拡大抑制に努めながら、経済の復興に向けた方策を、模索しているようです。

日本においても、新型コロナウイルスの感染防止対策として不要不急の外出、旅行の制限、三密を避ける、マスクの装着、手洗いの徹底、多人数の集会・イベント・会議の制限、ソーシャルディスタンスの厳守等々、様々な制約が言われ、人々は不自由な息苦しい生活を、強いられています。

海岸地区まちぢから協議会の活動においても、総会、定例会議の書面会議化や防災訓練、市民集会、体育祭、夏の盆踊り大会、ふれあいの集い、親睦バスツアー等々、各種行事は中止となり、具体的な地域活動はほとんど出来ません。各自治会においても、同様だと思います。

しかし、海岸地区まちぢから協議会としてはこの機会を前向きにとらえ、今まで毎年行ってきた各種の行事を見直し、再検討してより充実した活動に発展させていきたいと思えます。

たとえば、防災訓練においては、情報収集の多機能化、感染症対策を取り入れた避難所運営マニュアルの作成。広報掲示板の設置活動に関しては、市の助成金(財政不足で期待出来ません)に頼らず、宝くじの社会貢献広報事業の令和2年度コミュニティ助成事業に応募し、掲示板7ヶ所の設置費用、約250万円の助成内定を得ることができました。そして、各種行事においては、常に感染症対策を考慮した計画作りをしなければと考えています。

国政においても、安部長期内閣から菅内閣に移り、地元出身の河野太郎氏が、行政改革担当大臣に任命され、「縦割り行政の打破」、「各種行政改革」の実現を目指し、デジタル庁の新設により各分野でのデジタル化の促進が掲げられています。市行政においても、縦割り行政、前例主義の見直し等を、積極的に取り組んでいただく事を希望します。

新型コロナウイルスの問題は、今回に限られた事件ではなく、これからも周期的に何回も人類に降りかかってくる試練であると思えます。その為にも、今回の体験を教訓として今後の我々の生活パターンにおいても、常に感染症対策を意識し体制を構築しながら生活していくことを自覚する必要があるでしょう。

海岸地区まちぢから協議会としましても、以上のような考え方の基に、行政共、協力して地域の皆様が安心して暮らせる、「住んで良かった、これからも住み続けたい楽しい町」と感じていただける様に努力してまいりますので、どうかご支援ください。

この地球が、気が付けば「猿の惑星」とならない事を祈って……